

花王 ライオン

リサイクリエーション活動の協働を開始

花王とライオンは、プラスチック包装容器資源循環型社会の実現に向けて、フィルム容器のリサイクルに協働して取り組むことを決定した。フィルム容器のリサイクルに企業の枠を超えて取り組んでいく。

日本の日用品市場では、両社の日用品メーカーが、1990年代から包装容器プラスチック使用量の削減を進めてきた。濃縮化による製品容器のコンパクト化、つめかえ・つけかえ用製品の開発・普及により、プラスチック使用量を大幅に削減。2018年のつめかえ・つけかえ用製品は、全製品出荷量の80%となっている。一方、つめかえ容器は、主に使われているフィルム素材が複合材料からなるため、リサイクル材が多種類の成分からなる不均質なプラスチックとなり、リサイクルが困難な状況だ。



花王 ワンウェイプラスチックで資源循環型モデルの実証を開始

花王はこのほど、東京都による「プラスチックの持続可能な利用に向けた新たなビジネスモデル」公募の事業者に採択された。参加企業・団体とともに、「ワンウェイプラスチックの水平リサイクルに向けた資源循環型モデル事業」に取り組んでいく。

花王は、1990年代より製品の濃縮化による容器のコンパクト化、つめかえ・つけかえ用製品の開発と普及により、包装容器のプラスチック使用量の削減に取り組んできた。一方で、このようなプラスチック包装容器を含む飲料用ペットボトル以外の「その他プラスチック」の他「プラ」の国内資源循環は不可欠となっている。そこで今回、日用品メーカーの花王が主体となり、持続可能な社会の形成のために、資源を有効活用し、廃棄物の発生を最小限に抑えた「ワンウェイプラスチックの水平リサイクリエーション活動の協働を開始」。



また、現在江東区において、住民が洗浄した食器といった具体的な製品の開発とともに、使用済み包装容器の回収を含めた資源循環型システムを構築し、社会実装を目指す。

花王 研究開発部門統括の長谷部佳宏専務は、「ワンウェイプラスチックの本質的な解決のためには、製品のバリエーションに関わるより多くの企業が参加しやすい仕組みづくりが必要だ。資源循環社会の実現につながる新たなソリューションとして、日本から世界へ発信していくことを目指す」とコメントしている。

さまざまな課題があり、特につめかえ製品のフィルム容器は複合素材のため単一成分のみの分離が難しいうえ、メーカーによって使用しているプラスチック素材や設計が異なり、そのリサイクル素材をフィルム容器などの製品に再生する場合に多くの制約がある。

そこで、花王とライオンは資源循環型社会の実現を目指し、フィルム容器のリサイクルに企業の枠を超えて取り組む。リサイクルを加速させるためには、回収の基盤となる仕組みの構築とリサイクリ技術の開発が不可欠で、同時に製品使用後のプラスチック容器の分別など、消費者を含めたステークホルダーとともに社会の意識を変えていくことも必要だ。

その具体策として、「消費者、行政、流通との連携によるフィルム容器の分別回収のしくみの検討」「幅広い製品への利用や消費者の分別回収のしやすさに配慮し、企業間・業界の垣根を越えて共通利用が可能なリサイクル材料・容器の設計」「共同で回収・再生したリサイクル材料の活用方法の検討」「リサイクルに対する消費者の理解・協力」を進める。